

ミナミキビナゴ、キビナゴ、タレクチ、ムロアジ、メアジ、トウゴロイワシ、ミズン、ミズスル、テンジクダイ、サツパ、グルクマー、カタクチイワシ等が出現した。

ロ 魚探映像による魚種

浮敷網の網口の深さが16米しかないが、記録は4m~40mまでに及び範囲は広い。集魚時間の経過と共に上下移動していることからして、大体採捕された前記魚種の中に入るものと考えられる。

ハ 新魚種の発見について

11月20日金武湾内の伊計離島西方の調査時に浮敷網の裏側から「カタクチイワシ」が網目にさされているのが(約10尾程採取)発見された。

ニ 生態研究結果について

現在取まとめ作業中

ホ 活力蓄養試験について

ポンプ注水、余剰水の排水口からの排水による換水と、エアーコンプレッサーによる送気式で行ったが、これに使用する発電機は、集魚灯用も兼ねて居り、しかも性能が低いため集魚試験と同時試験が行えなかった関係もあって、長い時間継続試験ができない状況であった。第1回試験では午前4時45分から18時まで約13時間、約10kgのトウゴロイワシ、キビナゴ、ミズン、スク等を蓄養して、生残量約5kgで、50%の成果があった。第2回目では、1968年8月25日、4時50分、サツパ、グルクマー、メアジ、アカカマス、タチウオ、イケカツオ、アオヤガラ、タレクチ等約30kgを蓄養し、8月29日14時20分まで、約4日と10時間継続試験で、生残量10kg、30%で長期蓄養に一応の成果を得た。

(5) 鰹餌料の集魚及び水スルの活力試験

琉球水研、漁撈部

経過報告書

6月19日 午後3時泊港を出帆し午後7時半瀬底錨地に仮泊した。

6月20日 瀬底錨地を発し午前9時運天港内に到着し引続いて餌場並びに棒受網の操業可能な場所を調査した結果今回は下記漁場を選定して餌料の調査を実施した。

調査位置

Na1 東経128度00分 北緯26度40分12秒

Na2 東経128度01分2秒 北緯26度37分54秒

Na3 東経128度03分36秒 北緯26度38分24秒

① 調査項目及び試験の方法

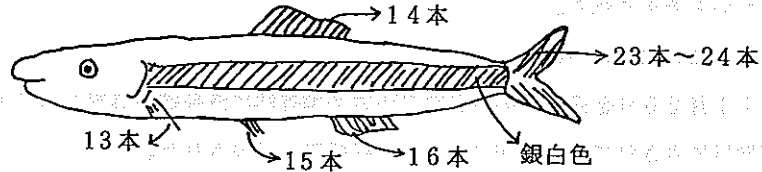
1) 水スル……魚体調査

- 2) 水上集魚灯 (小型 1k 発電機) 利用に依る集魚試験
- 3) 蕃養網に依る活力試験
- 4) 気象、海況調査

イ 魚体調査

(A) 水スルル…………… (10尾平均)

略図



全長60mm、体長51mm、体高8mm、体重1.44mg、尾鰭23~24条、背鰭14条、胸ビレ13条、腹鰭15条、股鰭16条、口の周囲の縁には小刻の歯があり、胸鰭の末端より尾の方へ6つの細い刺がある。股鰭の根元に15個位の黒点が附着し背鰭後端は股鰭前端と少々垂直下顎は短かく鰓蓋の界より銀白色の横線が通っている。

ロ 集魚状況及び採捕高

大雨直後で運天港内に到る処洶り透明度6米で水色悪く其の上点灯設備が不充分で一般的に集魚率は悪く最初にキビナゴが表面に集り次いで水スルルが其の下方に集魚する傾向があつた。

魚種 集魚高 採捕高

キビナゴ 20斤(約) 10斤

水スルル 不明 500尾

殆んどがキビナゴと水スルルで其の中でもキビナゴが大多数を示している様だが中層に來游した水スルルは透明度が浅く透視困難で数値不明。

ハ 活力試験 (蕃養網内)

同試験は次表の様な結果を得たが尚下記気象、海況等の条件が伴なっている。

試験位置	魚種	数量	採捕時	放養時	揚時	所要時間	弊死亡率
N 2°6' - 3°7' - 5°4'	水スルル	500尾	6月22日	10時45分	8時45分	8時間	90%
EI 2°8' - 0°3' - 3°6'	キビナゴ	10斤	1時40分	1時45分	8時45分	8時間	40%

天候	雲量	風向	風力	気温	気圧	水温	比重	透明度	水色	波浪
BC	6	SW	2	27°	1015.5	26.3	33.88	6米	5	2
底質										
泥M										